

エコアクション21

2023年度 環境経営レポート

対象期間 2023年4月1日～2024年3月31日



発行日
(改訂)

2024年4月26日
2024年6月3日

株式会社 サン電材社



TOKAI RIKAI GROUP

株式会社サン電材社 2023年度環境経営レポート 目次

1.環境経営方針	2
2.事業概要	3
3.実施体制		
① 組織図	4
② 役割と責任、権限	5
4.環境経営への取組みの全体概要	6
5.環境経営目標・実績		
① 環境経営目標	7~9
② 2023年度実績・達成状況	10・11
③ 2023年度 実績要因の分析	12・13
6.2024年度環境経営目標	14~17
7.環境経営計画	18
8.環境改善事例	19
9.法規・法令順守状況	20
10.外部コミュニケーションの記録	21
11.代表者による全体評価と見直し	22

株式会社サン電材社 環境経営方針

① 環境への取り組み 基本方針

- 1.社会の一員として、環境への取り組みを全社一丸となり進めます。
- 2.法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、
環境汚染の未然防止を進めます
- 3.環境改善活動および社会貢献活動を全社的・継続的に実施展開します。
- 4.顧客要望対応を充実させ、省エネ・環境配慮の高いものづくりを推進します

② 環境への取り組み 行動指針

- 1.環境目標の設定と継続的改善
当社の環境負荷削減のため、環境目標を設定し、目標達成のため全社で取り組みます。また、継続的な改善を図り、環境にやさしい企業を目指します。
- 2.産業廃棄物の削減とリサイクルの推進
産業廃棄物の分別の推進やリサイクル意識の向上を図ることでリサイクル率を高め、廃棄物総量の削減を推進します。
- 3.CO2排出量の削減と水資源の節約
空調や照明などの効率的な運用により電力使用量の削減および、社用車のハイブリッド車導入やエコ運転の推進等を通じ、CO2排出量削減を推進します。
また、水道等の水量適正化や連続使用の抑制、節水意識の向上をはかり水資源の利用節減を推進します。
- 4.顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮型製品の製造推進
お客様からの要望を製品に十分に反映させることで、省エネ・環境配慮型の製品を製造・販売することを推進します。
- 5.法令遵守
環境関連法令、条例、規制を遵守し、社会の一員としての責務を果たします。
- 6.近隣および社会との共存共栄
環境教育や啓蒙活動などの環境活動を通じ、全社員の環境意識の向上に努め近隣地域ならびに社会との良好な関係を育み、共存共栄に努めます。

制定： 2016年 4月 1日

改定： 2023年 6月 3日

株式会社 サン電材社

代表取締役

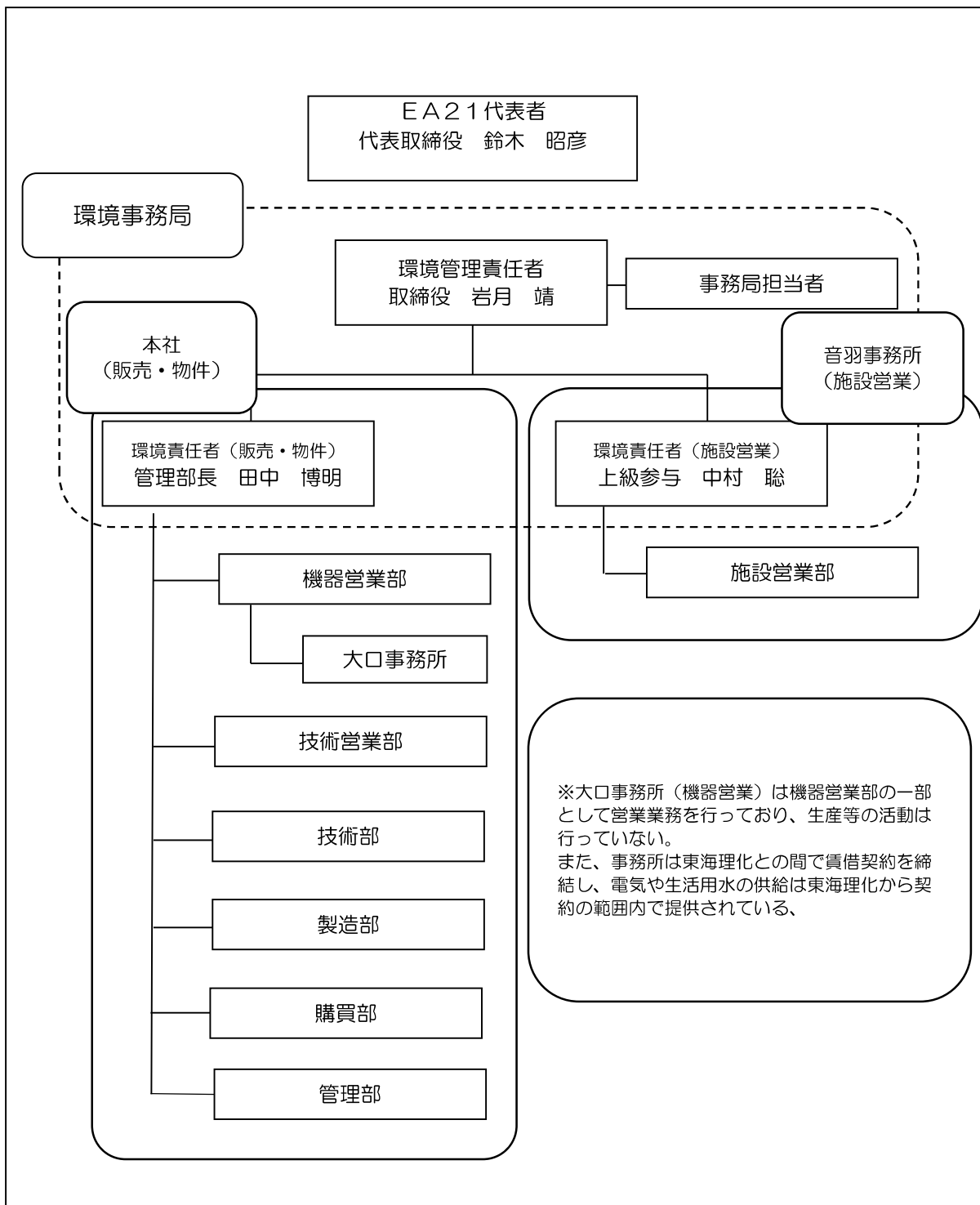
鈴木 昭彦

2.事業概要

事業者	株式会社 サン電材社
本社所在地	愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7
代表者	代表取締役 松橋 貞行
事業内容	産業用機械（自動機・検査機）及び 試験機的设计・製造・販売・メンテナンス 電機・機械部品の販売 建設工事の営業および施工管理（音羽事務所）
事業拠点	本社工場・事務所 〒441-8113 愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7 TEL：0532-38-5631（代表） FAX：0532-38-5682 事業所延べ面積：5580㎡ 建物面積 4011㎡ 音羽事務所 〒441-0295 愛知県豊川市赤坂町平山1番地 TEL：080-6978-1941（中村） FAX：0533-88-3098 事務所延べ面積：30㎡
事業の規模	事業期間 第51期（2023年4月～2024年3月） 売上高：7,434百万円（内 製作物：1,838百万円）
従業員数	113名（2023年3月31日時点） 内：本社 104名（正社員83名 パート・嘱託21名） 音羽事務所9名（正社員9名）
環境管理責任者	取締役 機器営業部長 岩月 靖 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：y.iwatsuki@sandenzai.co.jp
EA21推進事務局 （連絡先担当者）	管理部 室川 研児 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：k.murokawa@sandenzai.co.jp
対象範囲 （承認・登録範囲）	本社工場・事務所および音羽事務所

3.実施体制

① 組織図



改訂： 2024年6月3日

3.実施体制

② 役割と責任、権限

	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等の準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・環境経営方針の策定 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめを承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営方針の全従業員への周知 ・環境経営レポートの確認 ・審査結果及び是正措置等の代表者への報告
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、E A 2 1 の推進 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境経営の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開 ・環境重要設備の手順書作成及び運用管理 ・特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練の実施、記録の作成
環境責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点における環境経営システムの実施 ・拠点における環境経営方針の周知 ・拠点の従業員に対する教育訓練の実施 ・拠点に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 <p>拠点の問題点の発見、是正、予防処置の実施</p>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4.環境経営活動への取組みの全体概要

弊社は「2017年版エコアクション21ガイドライン」をもとに、環境負荷のチェックを行い環境経営目標の達成状況を評価し、改善に取り組んでいます。

① マテリアルバランス（全社）

INPUT		事業活動		OUTPUT	
＜エネルギー＞				＜CO2排出量＞	
電力（購入分）	261,326 kWh	全社売上高 7,434.8百万円 うち 本社 6,451.5百万円 音羽 983.3百万円		電力（購入分）	132,169 kg-CO2
ガソリン	28,611L			ガソリン	66,379 kg-CO2
軽油	2,618L			軽油	6,755 kg-CO2
				合計	205,303 kg-CO2
＜水＞				＜水＞	
上水	664m ³			排水	664m ³
＜原価＞				＜排出物＞	
商品仕入	5.044百万円			廃棄物	8,848kg
製造原価	1,460百万円			（再資源化）	6,079kg

② 全体概況

1) CO2排出量関連

- 電力購入分については、2023年7月より増設太陽光発電稼働した影響が大きい。
- ガソリン・軽油については、リモート会議の定着や音羽事務所等客先構内に事務所を設置したことによる自動車移動機会の減少が継続的な二酸化炭素減少に寄与している。

2) 水使用量（排水）

- 排水については「脱コロナ」による経済活動再開による、協力外注や顧客立ち合いの増加により生活用水の利用が増加したおかげで、前年より増加している。

3) 産業廃棄物の排出

- 廃棄物については、廃プラスチックが稼働増加により微増したが、前年と比較し臨時的な廃棄物の排出がなかったこと、廃油処理の工夫による排出量減少により、総体では前年よりも減少している。

4) 事業活動

- 「脱コロナ」による経済活動再開により、前年と比較し売上高が 1,457百万円増加した。それに伴い環境関連数値も増加しているが、環境活動の推進により目標を概ね達成している。

5.環境経営目標・実績

1) 環境経営目標

① 全社目標（数値目標）（単年度および中長期目標）

環境経営目標	単位	2022年度	2023年度	中期目標（前年度▲1%）	
		実績	単年目標	2024年度	2025年度
CO2排出量の削減 総合計		216,445	224,942	219,948	217,749
内訳					
電力消費によるもの	kg-CO2	140,514	139,036	134,900	133,551
化石燃料によるもの					
ガソリン		68,117	78,316	77,533	76,758
軽油		7,814	7,590	7,515	7,440
化石燃料計	75,931	85,906	85,048	84,198	
産業廃棄物 排出量抑制					
廃プラスチック	kg	1.63	1.63		
その他廃棄物		7.14	7.45		

<目標設定>

- ・電力使用によるCO2は、前年度実績の1%削減を目標とする。
- ・化石燃料によるCO2は、前年利用実績+2%上昇抑制を目標とする（業績回復加味）
- ・廃プラスチック排出量は前年利用実績+2%上昇抑制を目標とする（業績回復加味）
- ・その他産廃物排出量は、前年度実績の1%削減を目標とする。

<二酸化炭素排出量 排出係数>

項目	排出係数
電力消費によるもの※	0.506kg-CO ₂ /kWh
ガソリンによるもの	2.320kg-CO ₂ /L
軽油によるもの	2.580kg-CO ₂ /L

※電力量に係るCO2排出係数…環境省「電気事業者別排出係数 令和5年度」公表値のうち、
鈴与電力株式会社の調整後排出係数を使用。

5.環境経営目標・実績

1) 環境経営目標

② セグメント別目標(数値目標) (単年度目標)

(1) 本社目標

環境経営目標		単位	2022年度 実績	2023年度 単年目標
CO2排出量の削減 総合計			216,445	217,286
内訳	電力消費によるもの	kg-CO2	140,514	139,036
	ガソリン		68,117	70,660
	化石燃料によるもの 軽油		7,814	7,590
	化石燃料計		75,931	78,250
産業廃棄物 排出量抑制	廃プラスチック	kg	1.63	1.63
	その他廃棄物		7.14	7.45

(2) 音羽事務所 目標

環境経営目標		単位	2022年度 実績	2023年度 単年目標
CO2排出量	ガソリンによるもの	kg-CO2	7,327	7,656

<二酸化炭素排出量 排出係数>

項目	排出係数
電力消費によるもの※	0.506kg-CO ₂ /kWh
ガソリンによるもの	2.320kg-CO ₂ /L
軽油によるもの	2.580kg-CO ₂ /L

※電力量に係るCO₂排出係数…環境省「電気事業者別排出係数 令和5年度」公表値のうち、
 鈴与電力株式会社の調整後排出係数を使用。

5.環境経営目標・実績

1) 環境経営目標

③ 定性目標の設定

項目	対象	活動	活動成果
古紙・段ボールの リサイクル推進	本社 ・音羽	①古紙収集の維持	紙使用総量の減少
		②電子化の推進	ワークフロー項目拡大
節水活動	本社	①水使用量の安定化	622m ³ →664m ³ (+6.7%)
		②節水啓蒙活動の継続	「水の週間」活動の展開
危険物・化学物質の 適正管理	本社	①在庫発注点管理	指定数量未滿維持
		②化学物質棚卸実施	不明在庫なし

目標「顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮・顧客満足度の高いものづくりの推進」について

<事例> ※機密保護のため、画像の紹介や具体的な情報は割愛する

① 製菓業の自動機製作案件

従来手作業で行っていた工程・検査を自動化することで、製造ロスを大幅に減少。



② 漁業自動化案件

近海漁業の自動化案件への取り組みを実施。人手不足による漁獲減少対策を目指す。



→この他の案件に関しても「お客様満足度の向上」のための活動を実施し、顧客満足度の高いものづくりを実施している。

5.環境経営目標・実績

2) 環境経営実績

① 全社目標（数値目標）

環境経営目標	単位	2023年度 単年目標	2023年度 実績	達成状況 ・評価
CO2排出量の削減 総合計	kg-CO2	224,942	205,302	▲10.7% ○
電力消費によるもの		139,036	132,169	▲4.9% ○
内訳 ガソリン		78,316	66,378	▲15.2% ○
化石燃料によるもの 軽油		7,590	6,754	▲11.0% ○
化石燃料計		85,906	73,133	▲14.9% ○
産業廃棄物 排出量抑制		kg	1.63	1.67
その他廃棄物	7.45		6.78	▲9.0% ○

評価…… 達成 ○ 対目標+10%内 △ 目標+10%以上 ×

5.環境経営目標・実績

2) 環境経営実績

② セグメント別実績（数値目標）

<本社>

環境経営目標	単位	2023年度 単年目標	2023年度 実績	達成状況 ・評価
CO2排出量の削減 総合計	kg-CO2	217,286	198,674	▲8.6% ○
電力消費によるもの		139,036	132,169	▲4.9% ○
内訳 ガソリン		70,660	59,751	▲15.4% ○
化石燃料に よるもの 軽油		7,590	6,754	▲11.0% ○
化石燃料計		78,250	66,505	▲15.0% ○
産業廃棄物 排出量抑制		kg	1.63	1.67
その他廃棄物	7.45		6.78	▲9.0% ○

<音羽事務所>

環境経営目標	単位	2023年度 単年目標	2023年度 実績	達成状況 ・評価
CO2排出量 ガソリンによるもの	kg-CO2	7,656	6,628	▲13.4% ○

評価…… 達成 ○ 対目標+10%内 △ 目標+10%以上 ×

5.環境経営目標・実績

3) 実績要因の分析

① 要因分析における前提

1) 環境の変化

変化点	詳細
「脱コロナ」による 経済活動回復	新型コロナウイルス感染症が「特定」→「5類」となり、社会活動制限による感染抑制から、個別対策に移行したことで、「コロナ前」のような経済活動が回復した。
リモート会議の定着	お客様・取引先との打ち合わせや、ウェビナーの定着により、移動機会が減少した。
猛暑による空調稼働増	最高気温40度を超える日が増加したことにより空調稼働が従来よりも増加した。

2) 2023年度の取り組み

変化点	詳細
増設 太陽光発電システムの稼働開始	2023年7月26日より、66kW級太陽光発電システムが稼働したことで、自家消費で利用できる再生エネルギーが増加した。
廃油処理量の削減	マシニングセンタの切削クーラントについて、年2回交換→年1回交換に変更した。 ※品質に影響ないことを確認済み。

3) その他

変化点	詳細
混合廃棄物 臨時的な排出なし	2S活動や滞留在庫処分による混合廃棄物の臨時的な排出が今期は無かった。

5.環境経営目標・実績

3) 実績要因の分析

② 要因分析

項目	達成状況	要因分類	詳細
CO2削減	▲10.9%		
電力 CO2排出量削減	▲4.9%	取組	<ul style="list-style-type: none"> 増設太陽光発電システムの稼働開始 再生エネルギー 37千kWhを自家消費利用したことで削減できた。
化石燃料 CO2排出量削減	▲14.9%	環境	<ul style="list-style-type: none"> リモート会議の定着 リモート会議が定着したことで、車両の移動機会減少によりCO2が削減できた。
廃プラスチック 排出量増	+2.5%	環境	<ul style="list-style-type: none"> 「脱コロナ」による稼働増加 「脱コロナ」による経済活動回復により稼働（売上）が大幅に増加した。
その他廃棄物 排出量減少	▲9.0%	取組	<ul style="list-style-type: none"> 廃油処理量の削減 品質に影響ない範囲で、マシニングセンタ切削クーラントの交換回数を減少させ、廃棄物排出量を削減した。
		その他	<ul style="list-style-type: none"> 混合廃棄物 臨時排出なし 2S等による混合廃棄物の臨時排出が無かったため、排出量が抑制された。

6.2024年度環境経営目標

1) 前提条件 計画値への影響要素

項目	詳細	影響割合・数値等
事業実績見通	今期実績 7,434百万に対し、	稼働▲5.7%
	2024年度見通し7,013百万（以上）	
気候変動	夏季 最高気温40度越えの期間が	不確定要素 (増加方向)
	多くなれば、電力使用が拡大する。	
増設太陽光の 通年稼働	増設太陽光発電の通年稼働で、再生	期待値▲10%
	エネルギー利用が拡大する。	

→ エネルギー利用減少方向に影響する要素があるものの、確定的な要素は無いと判断されるため、数値目標については

「前年度エネルギー使用実績の▲1%削減」とする。

※CO2排出量の削減は エネルギー利用量×排出係数で計測する。

2) 廃棄物排出目標の定性化

廃棄物排出目標は稼働状況に正比例する。現状では、過剰な廃棄や有価物の分別不徹底などの要素がなく、廃棄物排出削減＝稼働の減少とになってしまうため、環境活動が経営活動に悪影響を及ぼしかねないことから、廃棄物に関する目標を

- ・廃棄物の再資源化率（中間処理以降含む）の維持（向上）

とし、定性目標化する。

※注：廃棄物の数値集計は継続して実施する。

6.2024年度環境経営目標

1) 環境経営目標

① 全社目標（数値目標）

環境経営目標		単位	2023年度 実績	2024年度 単年目標
CO2排出量の削減 総合計		kg-CO2	205,302	198,180
電力消費によるもの			132,169	131,741
内訳	ガソリン		66,378	59,826
	化石燃料によるもの 軽油		6,754	6,613
	化石燃料計		73,133	66,439



<二酸化炭素排出量 排出係数>

項目	排出係数
電力消費によるもの※	0.506kg-CO ₂ /kWh
ガソリンによるもの	2.29kg-CO ₂ /L
軽油によるもの	2.610kg-CO ₂ /L

※電力量に係るCO₂排出係数…環境省「電気事業者別排出係数 令和5年度」公表値のうち、
鈴与電力株式会社の調整後排出係数を使用。

※ガソリン・軽油に係るCO₂排出係数…

環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」を利用
(令和5年12月12日公表)

6.2024年度環境経営目標

1) 環境経営目標

② セグメント別目標（数値目標）（単年度および中長期目標の修正）

<本社>

環境経営目標		単位	2023年度 実績	2024年度 単年目標	
CO2排出量の削減 総合計			198,674	192,108	
内訳	電力消費によるもの	kg-CO2	132,169	131,741	
	化石燃料によるもの		ガソリン	59,751	53,754
			軽油	6,754	6,613
			化石燃料計	66,505	60,367

<音羽事務所>

環境経営目標	単位	2023年度 実績	2024年度 単年目標
CO2排出量の削減 ガソリンによるもの	kg-CO2	6,628	5,982

<二酸化炭素排出量 排出係数>

項目	排出係数
電力消費によるもの※	0.506kg-CO ₂ /kWh
ガソリンによるもの	2.29kg-CO ₂ /L
軽油によるもの	2.610kg-CO ₂ /L

※電力量に係るCO2排出係数…環境省「電気事業者別排出係数 令和5年度」公表値のうち、
鈴与電力株式会社の調整後排出係数を使用。

※ガソリン・軽油に係るCO2排出係数…

環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」を利用
(令和5年12月12日公表)

6.2024年度環境経営目標

1) 環境経営目標

③ 定性目標の設定

項目	対象	活動	活動成果
古紙・段ボールの リサイクル推進	本社 ・音羽	①古紙収集の維持	紙使用総量の減少
		②電子化の推進	ワークフロー項目拡大
産廃物 再資源化率 87.5%の維持（拡大）	本社	①混合廃棄物分別	金属排出量の増加
		②廃油排出量減少	再資源化率の押し上げ
節水活動	本社	①水使用量の安定化	664m ³ 維持
		②節水啓蒙活動の継続	節水情報の展開
危険物・化学物質の 適正管理	本社	①在庫発注点管理	指定数量未滿維持
		②化学物質棚卸実施	不明在庫なし

目標「顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮・顧客満足度の高いものづくりの推進」について

自動車産業の業務にとらわれず、新規分野・新規案件へのトライを続けることで、各産業が抱えていた課題を解消するものづくりを進めてゆく。

7.環境経営計画

項目		計画の内容	責任者	日程
二酸化炭素 排出量削減	電力	電力デマンド装置による電力利用監視・ 電力需要期の空調運転管理	管理部 (田中・岩月)	2025/3/31 継続活動
	ガソリン ・軽油	東海理化本社に事務所スペース確保 (移動コスト削減)	田中・岩月	2025/3/31 継続活動
		利用距離に応じたHV車輛配車 (HV活用最適化)	田中・岩月	2025/3/31 継続活動
産業廃棄物 排出抑制	廃プラスチック	緩衝材（エアクッション等）の再利用推進	田中・岩月	2025/3/31 継続活動
	その他廃棄物	混合廃棄物のリサイクル推進 ・スクラップ（古い機材・事務機等）引取可能業者選定 ・資源（金属など）分別の推進	田中・岩月	2025/3/31 継続活動
一般廃棄物 排出量維持抑制	古紙リサイクル活動の推進 (リサイクル排出種類増 など)	田中・岩月	2024/3/31 継続活動	
節水	節水の啓蒙（手洗い等適切な範囲内での水道使用）	田中・岩月	2025/3/31 継続活動	
化学物質の 適正管理	化学物質 仕入（保管）量の上限設定・かんぱん等を利用した発注点管理	関川	2025/3/31 継続活動	
	化学物資棚卸の定期的実施と結果に基づく上限数量の見なおし（2回/年）	関川	2025/3/31 継続活動	
顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮・顧客満足度の高いものづくりの推進	技術・製造関連会議を通じたQCD活動による顧客満足度の向上 ・物件進捗会議、技術製造会議の 定例開催と会議内容のフィードバック ・顧客要望に基づく製造を通じた環境への貢献（省人化、省エネ化など）。	小林・武藤	2025/3/31 継続活動	

8.環境改善事例

番号	取り組み	事例写真	詳細
1	古紙リサイクルの 推進・拡大 (継続活動)		<p>古紙リサイクルの排出範囲を拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな紙ごみもリサイクル化 ・シュレッダーごみのリサイクル排出 <p>一般廃棄物として排出していた紙ごみをリサイクル化することで、一般廃棄物排出量の減少につながりました。</p>
2	空調運転の最適化 (継続活動)		<ul style="list-style-type: none"> ・一日2回、事業場の室温および空調の設定温度を確認。 夏季室温28℃・冬季室温20℃になるよう調整しています。 <p>(2019年度より活動継続)</p>
3	電力デマンド監視装置 による電力使用量管理 (継続活動)		<p>「電力デマンド監視装置」を設置。電力使用量および最大電力需要の見える化を実施し、冬・夏の空調稼働時期の電力調整を実施し、省エネを推進しています。</p>
4	太陽光発電装置の 増設		<p>2023年7月より、66kW級の太陽光発電装置を増設。</p> <p>発電電力を全量自家消費することで最大47千 kWhの電力削減を期待。</p>
5	「スポGOMlin豊橋」 への参加		<p>ゴミ拾いイベントに競技性を持たせた「スポGOM！」豊橋大会へ初参加。今後継続的な参加を予定。</p>

9.法規・法令順守状況

・主な法規・法令順守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

法令・法規に関し関連する各機関からの指摘についても過去3年間ありませんでした。

確認日 2024年3月31日

確認者 環境管理責任者 岩月 靖

法規・法令	条文	規程	遵守内容	判定	状況
騒音規制法	法4・5	都道府県知事が定める基準	騒音規制基準の順守	○	騒音状況：全時間帯で規制値内
振動規制法	法5	都道府県知事が定める基準	振動規制基準の順守	○	振動状況：全時間帯で規制値内
フロン排出抑制法	法16	告示2-1	管理第一種特定製品の簡易点検及び専門点検	○	保守業者による年次点検および簡易点検（外観検査）実施
	法16	告示2-2	一定規模以上の管理第一種特定製品の定期点検	○	保守業者による年次点検実施
	法16	告示4	管理第一種特定製品の点検及び整備に係る記録等に関する事項	○	製品毎に点検記録簿整備 点検時毎、点検記録記載
浄化槽法	法8・9・10	規2・3・6	浄化槽の保守点検及び清掃	○	清掃（年一回）2023年7月 点検（年4回）実施
	法11	規9	法定検査の受検	○	2023年10月受検
廃棄物処理法	法12	規8	廃棄物管理および処理委託関連	○	法逸脱なし。 周辺住民からの苦情なし。
	法12-3-1・6	—	マニフェスト交付義務および交付一覧提出	○	廃棄物委託の度にマニフェスト交付。 交付一覧表を2024年4月提出
労働安全衛生法	法11・12	安衛則4・7・16	安全管理者・衛生管理者の選任	○	各1名ずつ選任
	法16	安衛則16 有機則16	作業責任者の専任（有機溶剤）	○	1名選任
消防法	法9-3	—	指定数量未満の危険物の貯蔵・取扱	○	指定数量1/5未満を維持している
毒物及び劇物取締法	法11	—	対象薬品の貯蔵・盗難紛失対策	○	施錠管理・数量管理を実施
廃棄物の適正処理促進条例（愛知県条例）	条例7-1	規3	委託契約業者の定期的な確認	○	各社年一回実施している。

10.外部コミュニケーションの記録

I.外部からの苦情の受付状況

2023年4月1日～2024年3月31日における周辺住民および外部機関からの苦情はありませんでした。

II.利害関係者との訴訟・紛争等

2023年4月1日～2024年3月31日において当社の利害関係者との間に訴訟や紛争等の発生はありませんでした。

確認日

2024年4月1日

確認者

環境管理責任者 岩月 靖

11.代表者による全体評価と見直し

I.全体評価

① 環境負荷低減

1) 二酸化炭素排出量

二酸化炭素総排出量については、目標に対し89.3%と目標を達成しました。

電力使用にかかる二酸化炭素総排出量については、2023年7月より増設した太陽光発電が稼働したことで、再生エネルギーの利用拡大による購入電力量が減少いたしました。

化石燃料にかかる二酸化炭素排出量については、リモート会議の体制整備や大口顧客との営業連絡先設置など移動機会低減のための施策が定着化し、目標に比べ14.9%減少いたしました。

2) 産業廃棄物排出量

廃プラスチック排出量は目標に対し2.5%排出量が増大しました。

「脱コロナ」による経済活動の回復から、弊社稼働も増加し、業績に比例するように排出量も増大したことによります。

その他廃棄物については、前年のように突発的・臨時的な廃棄物排出が発生しなかったことから、9.0%の排出量減少となっております。

② 定性目標に対する活動

本年度より「活動評価が適切なもの」について、定性目標を設定いたしました。

古紙・段ボールのリサイクル推進、水道使用量の維持と節水活動、危険物や化学物質の適正管理を推進・改善し「環境経営方針」に乗っ取った職場づくりを行っています。

③ 顧客要望対応

「経営における課題とチャンス」で認識した「顧客要望対応」につきましては、技術・製造部門の全体会合から各受注案件に関する個別打ち合わせに至るまで、顧客要望に基づいた省力化・省エネルギー化の検討を実施することで、顧客満足度の向上に努めております。

④ 法規・法令順守およびコミュニケーション

環境法令違反や環境ヒヤリハット、近隣住民等からの環境に関する苦情はありませんでした。

II.見直しと総括

環境経営方針については、2018年4月1日改定分について検討いたしましたところ、改定変更の必要なしと判断いたしました。実施体制につきましても検討の結果、変更の必要はございません。

環境経営目標については、目標の達成が可能になるよう評価レベル、評価方法および環境経営計画の見直しを行うよう環境事務局へ指示いたしました。

新型コロナウイルス感染症に対する制限が緩和され、景気回復への期待が高まる中、経営資源の最適な運用と環境配慮型の経営を通じ、顧客要望に全力で対応し業績向上に努めてまいります。

2024年 4月 26日

株式会社 サン電材社

代表取締役 **松橋 貞行**

前任より交代した際に環境活動レポートを

2024年 6月 3日

再確認いたしました。

株式会社 サン電材社

代表取締役 **鈴木 昭彦**